

病害虫発生予察 6月月報 (生育概況及び病害虫の調査結果)

令和7年6月の気象表(長野地方気象台発表)

官 署	平均気温 °C			降水量 mm			日照時間 h			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
長 野	本年	19.4	23.0	25.3	11.5	48.5	57.5	54.3	59.7	65.6
	平年	19.2	20.5	21.6	15.7	35.3	55.1	67.3	54.8	45.6
松 本	本年	19.6	23.6	25.0	24.5	35.0	61.0	65.0	66.7	71.7
	平年	18.9	20.2	21.6	17.5	42.8	54.5	66.2	54.5	45.6
諏 訪	本年	18.4	22.2	23.8	46.0	118.5	51.0	61.4	64.0	69.0
	平年	18.0	19.3	20.6	22.7	59.7	72.7	64.9	53.0	43.4
軽井沢	本年	15.0	19.4	20.7	22.5	51.0	43.0	54.5	63.5	65.1
	平年	14.5	16.1	17.5	29.1	64.4	61.1	60.5	47.3	38.7
飯 田	本年	19.3	23.6	24.6	94.0	112.0	34.0	53.9	61.3	64.6
	平年	19.3	20.7	21.8	33.5	67.4	91.0	61.9	52.4	41.4

前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かった一方、高気圧に覆われて晴れる日も多く、県内のほとんどの地点で6月としての月平均気温が過去最高を更新した。

なお、気象庁は6月10日に「長野県を含む関東甲信地方は6月10日頃に梅雨入りしたと見られる」と発表した(速報値)。これは平年より3日遅く(平年6月7日頃)、前年より11日早い(昨年6月21日頃)梅雨入りであった。

1 麦

(1) 生育概況

令和7年産(令和6年播種)の生育概況は、農業試験場ホームページの生育調査にある「麦類の生育状況(令和7年産(令和6年播種))」を参照ください。

農業試験場ホームページ

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nogyoshiken/teirei/index.html>)

(2) 病害虫の発生状況

①麦類の赤かび病

6月上旬の巡回調査では、巡回調査地点における100穂調査では発病穂はみられなかった。ただし、南信地域、北信地域の巡回調査地点以外のほ場において、発病穂がみられた。

②さび病

6月上旬の巡回調査での巡回調査地点における100穂調査では、コムギ赤さび病の発生地点率、発病度は平年と比べ低かった。なお、中信地域での発生はみられなかった。

③うどんこ病

6月上旬の巡回調査では、北信地域の一部で発生がみられたが、発病度、発病地点率は平年と比べ低かった。

④小麦の土壤伝染性ウイルス病(コムギ縮萎病、コムギ萎縮病)

6月上旬の巡回調査では、中信地域、北信地域で発生がみられた。北信地域の一部では、発生面積が前年と比べ増加した(全県の発生面積71.0ha(前年発生面積65.5ha)※病害虫防除部調べ)。

2 水稲

(1) 生育概況

水稲の生育状況の生育概況は、農業試験場ホームページの生育調査にある「水稲の生育状況(令和7年度)」を参照ください。

農業試験場ホームページ

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nogyoshiken/teirei/index.html>)

(2) 病害虫の発生状況

①いもち病

アメダスデータを用いた葉いもち感染予測モデル「BLASTAM」によると、6月の感染好適条件の出現頻度は、県全体で平年と比べ多くなった(第4表)。

第4表 BLASTAMによる葉いもち感染好適条件出現回数(6月)

地域	東信	南信	中信	北信	全県
アメダス地点数	5	8	9	5	27
平 年	3.7	5.9	4.3	3.6	17.5
本 年	4	9	8	4	25
平年比(%)	108.1	152.5	186.0	111.1	142.9

※BLASTAMの判定結果は、JPP-NET(一般社団法人日本植物防疫協会)から引用

平年は2015年から2024年までの平均値

そこで、全県で葉いもちが多発する恐れがあることから、令和6年7月17日付けで「令和7年度病害虫発生予察注意報第3号(イネいもち病)」を発表し、注意喚起した。

②ニカメイガ

小布施町のフェロモントラップ調査では、第6半旬に1頭誘殺されたが、他の期間は誘殺がなかった(第5表)。

上田市の予察灯では、6月の誘殺頭数はほぼ平年並であった(第6表)。

第5表 ニカメイガのフェロモントラップによる誘殺消長(頭) 小布施町

月	6月					
	半旬	1	2	3	4	5
平年	0.2	0	0	0	0.1	0.1
本年	1	0	0	0	0	0

平年は2015年から2024年までの平均値

第6表 ニカメイガ成虫の予察灯による誘殺消長(頭) 上田市

月	6月					
	半旬	1	2	3	4	5
平年	5.3	6.9	8.0	7.1	3.8	2.9
本年	3	4	9	6	4	4

平年は2015年から2024年までの平均値

③ツマグロヨコバイ

第1世代成虫のすくい取り調査は、捕獲頭数はほぼ平年並であった。

④ヒメトビウンカ

上田市の予察灯では、6月第3半旬から誘殺され、6月第4半旬以降の誘殺頭数はほぼ平年並であった。

須坂市八重森の予察灯では、6月第4半旬から誘殺され、誘殺頭数はほぼ平年並であった。

なお、その他4か所の予察灯では、6月中の誘殺はなかった。

⑤イネミズゾウムシ

AMeDAS気温データによる越冬後成虫の半数出現推定時期は、26地点中16地点が平年と比べ1日～5日早く、中信地域、北信地域の7地点で平年と比べ1日～5日遅かった。

6月下旬の巡回調査では、越冬成虫寄生頭数はほぼ平年並であったが、被害度は平年と比べ低かった。

⑥イネドロオイムシ

6月下旬の巡回調査では、東信地域の幼虫確認頭数は平年と比べ多かったが、全県では平年と比べ少なかった。被害度は、東信地域は平年と比べ高かったが、全県では平年と比べ低かった。

⑦セジロウンカ

県下6か所の予察灯では、誘殺はなかった。

⑧トビイロウンカ

県下6か所の予察灯への誘殺はなかった。

⑨斑点米カメムシ類

6月下旬に実施した畦畔でのすくい取り調査(ネット20回振り)では斑点米カメムシ類の捕獲地点率が全域で83.9%(平年54.9%)と高く、1地点あたりの平均捕獲頭数も12.3頭(平年4.4頭)と多かった(表7)。

県内における主要種であるアカヒゲホソミドリカスミカメに加え、アカスジカスミカメの捕獲が目立った(表8)。

第7表 斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り(ネット20回振)による捕獲状況

地域	調査地点数	捕獲地点率(%)			1地点当り平均捕獲頭数		
		本年	平年	平年比(%)	本年	平年	平年比(%)
東信	15	80.0	43.7	183.1	2.3	1.5	160.7
南信	15	80.0	56.5	141.5	8.2	3.6	230.3
中信	18	88.9	60.5	146.9	29.3	6.6	441.6
北信	14	85.7	62.1	138.0	5.6	4.2	134.0
全県	62	83.9	54.9	152.7	12.3	4.4	279.4

第8表 斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り(ネット20回振)による捕獲頭数

地域	調査地点数	斑点米カメムシ類の捕獲頭数(捕獲割合(%))						
		計	アカヒゲホソミドリカスミカメ	アカスジカスミカメ	ホソミドリカメムシ	トゲシホソカメムシ類	アカヒゲホソカメムシ	コハネヒョウタンカメムシ
東信	15	35	23	8	0	4	0	0
南信	15	123	83	27	8	2	2	1
中信	18	527	279	223	19	2	4	0
北信	14	79	50	22	7	0	0	0
全県	62	764 (100)	435 (56.9)	280 (36.6)	34 (4.5)	8 (1.0)	6 (0.8)	1 (0.1)

県内6カ所に設置した予察灯の調査において6月第2半旬以降、アカヒゲホソミドリカスミカメは上田市、伊那市、南木曾町、須坂市の4地点で平年と比べ多く(表9)、アカスジカスミカメは上田市、伊那市、飯田市、須坂市の4地点で、平年と比べ誘殺頭数が非常に多かった(表10)。

そこで、全県で葉いもちが多発する恐れがあることから、令和7年7月14日付けで「令和7年度病害虫発生予察注意報第2号(斑点米カメムシ類)」を発表し、注意喚起した。

第9表 予察灯によるアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺数(頭)

月・半旬	上田市中野		伊那市美篁		南木曾町田立		須坂市八重森	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	1	1.3	0	0.2	0	0.0	1	0.7
2半旬	22	3.8	0	0.2	0	0.5	3	3.1
3半旬	39	14.8	0	1.1	0	2.3	3	6.2
4半旬	145	18.3	11	4.0	0	3.9	36	2.7
5半旬	123	49.0	15	7.4	0	6.9	20	11.3
6半旬	145	88.9	16	21.7	0	9.2	35	15.3
7月1半旬	118	64.7	41	29.5	41	8.2	80	22.4
計	593	240.8	83	64.1	41	31.0	178	61.7
平年比(%)	246.3		129.5		132.2		288.5	

第10表 予察灯によるアカスジカスミカメの誘殺数(頭)

月・半旬	上田市中野		伊那市美篁		飯田市上郷		須坂市八重森	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.5	0	0.1	0	0.0
2半旬	0	0.2	0	0.5	0	0.1	3	0.1
3半旬	6	0.0	2	0.1	0	0.2	3	0.0
4半旬	28	0.0	3	0.0	12	0.1	4	0.0
5半旬	12	0.0	1	0.0	21	0.1	10	0.0
6半旬	68	0.4	1	0.0	16	1.0	20	0.5
7月1半旬	62	0.9	4	0.2	9	1.6	5	0.4
計	176	1.5	11	1.3	58	3.2	45	1.0
平年比(%)	11,733		846		1,832		4,500	

3 りんご

(1) 病害虫の発生状況

①赤星病

巡回調査では、発生はみられなかった。

②うどんこ病

巡回調査では、発生はみられなかった。

③褐斑病

巡回調査では、中信2ほ場でわずかに発生がみられた。

須坂市(果樹試験場)内の無防除樹での初発(新梢葉)の発病は、6月6日に確認された。

④黒星病

巡回調査では、北信の1ほ場で幼果に発生がみられた。発病果率は1.3%であった。

⑤斑点落葉病

巡回調査では、東信および北信地域で広く発生がみられ、発生葉率は0.3~4.5%であった。

⑦アブラムシ類

巡回調査では、各地域で新梢の先端にみられ、発生量は平年並~やや多かった。

⑧キンモンホソガ

巡回調査では、南信1ほ場、北信1ほ場で寄生葉(マイン)がみられ、被害葉率は0.2~2.0%であった。

須坂市(果樹試験場)のフェロモントラップ調査では、6月は平年と比べて多く(第1表)、発生時期は平年とほぼ同じであった。

第1表 キンモンホソガのフェロモントラップ誘殺消長(頭)

須坂市(果樹試験場)

区分	6月					
	1	2	3	4	5	6
平年	50.8	102.5	130.0	102.0	41.2	23.5
前年	188	255	75	58	56	32
本年	71	131	264	105	175	55

平年は2015年から2024年までの平均値

⑨シンクイムシ類

須坂市(果樹試験場)のモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べ第2半旬以降は多かった(第2表)。

第2表 モモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺消長(頭)

須坂市(果樹試験場)

区分	6月					
	1	2	3	4	5	6
平年	5.2	10.2	7.7	7.5	6.1	3.3
前年	0	6	0	4	4	0
本年	4	17	48	33	20	6

平年は2015年から2024年までの平均値

⑩ハダニ類

巡回調査では、発生はみられなかった。

⑪リンゴコカクモンハマキ

巡回調査では、新梢の被害はみられなかった。

また須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップでは、6月の誘殺はなかった。

4 **なし**

(1) 病害虫の発生状況

①赤星病

巡回調査では、南信の1ほ場で発生が見られた。

②黒星病

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）の調査では、殺菌剤無散布の果実及び果そう葉の発病率は、平年と比べ低い傾向である（第1, 2表）。

第1表 果実の発病 (%) 高森町（南信農業試験場）

区分	5月			6月			7月	
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日	15日
平年	13.8	26.7	28.7	40.4	49.5	54.6	69.3	80.7
前年	0.3	0.5	1.3※	1.2	1.2	21.7	22.1	59.7
本年	0.1	0.0	0.0	1.8	4.4	6.0	6.9	14.5

平年は2015年から2024年までの平均値 「幸水」の殺菌剤無散布樹で調査

※：摘果後の調査結果

第2表 果そう葉の発病 (%) 高森町（南信農業試験場）

区分	5月			6月		
	5日	15日	25日	5日	15日	25日
平年	1.4	5.7	21.1	35.7	51.8	60.5
前年	0.0	0.0	4.0	6.9	5.9	17.8
本年	0.0	0.0	0.5	0.9	7.8	6.5

平年は2015年から2024年までの平均値 「幸水」の殺菌剤無散布樹で調査

③黒斑病

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）の調査では、アルタナリア属菌の孢子捕捉数は、5月中旬から増加している（第3表）。

高森町（南信農業試験場）の調査では、殺菌剤無散布の新梢葉の発病は平年と比べやや高く、果実の発病は5月下旬からみられ、発病率は平年と比べやや高かった（第4, 5表）。

第3表 アルタナリア属菌の捕捉孢子数(個) 高森町（南信農業試験場）

区分	5月			6月			7月
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
平年	7.2	19.6	27.1	40.0	59.1	47.5	31.4
前年	13	14	37	59	25	73	22
本年	3	16	20	44	73	99	88

平年は2015年から2024年までの平均値

表中の数字は18mm×18mm当たりの孢子数(個)

第4表 果実の発病(「二十世紀」殺菌剤無散布樹)(%)

高森町（南信農業試験場）

区分	5月			6月			7月	
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日	15日
平年	0	0	1.3	4.6	9.6	23.5	43.6	75.0
前年	0	0	1.0	9.5	11.1	45.0	65.4	95.8
本年	0	0	2.6	12.0	35.3	54.5	55.6	96.5

平年は2015年から2024年までの平均値

第5表 新梢葉の発病(「二十世紀」殺菌剤無散布樹)(%)

高森町（南信農業試験場）

区分	5月			6月			7月	
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日	15日
平年	0.1	0.3	3.1	7.1	11.5	22.7	30.9	41.7
前年	0.0	0.5	0.9	11.4	10.5	17.5	21.1	22.8
本年	0.0	0.0	5.1	7.4	19.1	27.5	32.0	44.5

平年は2015年から2024年の平均値

④カメムシ類

巡回調査では、被害果はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、クサギカメムシは平年並、チャバネアオカメムシは多かった（第6表）。

第6表 カメムシ類のフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	月 半旬	6月					
		1	2	3	4	5	6
クサキ カメムシ	平年	0.2	0.2	0.1	0.1	0.4	0
	前年	0	1	0	0	0	0
	本年	0	0	0	0	0	0
チャハ ネアカ ムシ	平年	2.1	2	1.8	0.6	2.8	4
	前年	1	0	8	0	6	5
	本年	3	0	10	52	17	29

平年は2015年から2024年までの平均値

⑤ナシヒメシクイ

巡回調査では、被害果はみられなかった。
高森町（南信農業試験場）でのフェロモントラップによる誘殺頭数は、6月第4半旬以降は平年と比べ多かった（第7表）。

第7表 ナシヒメシクイのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	6月					
	1	2	3	4	5	6
平年	0.5	1.0	1.0	1.3	1.1	0.9
前年	0	3.5	7.0	0.5	3.5	0.5
本年	1.0	1.5	1.5	2.5	7.0	4.5

平年は2015年から2024年までの平均値

⑥ハダニ類

巡回調査では、南信地域の一部のほ場で寄生がみられた。

⑦リンゴコカクモンハマキ

巡回調査では、発生はみられなかった。
高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺は、第2半旬で平年より多かった（第8表）。

第8表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	6月					
	1	2	3	4	5	6
平年	1.1	0.7	0.3	0.1	0.1	0
前年	0	0.5	0.5	0	0	0
本年	2.5	6.0	0.5	0	0	0

平年は2015年から2024年までの平均値

5 **もも**

(1) 病害虫の発生状況

①せん孔細菌病

巡回調査では、県下全域で発病葉がみられ、発病葉率は0.1～2.2%であった。

②灰星病

巡回調査では、発生はみられなかった。

③ハマキムシ類

巡回調査では、発生はみられなかった。

④モモハモグリガ

巡回調査では、被害葉はみられなかった。
須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップ調査による誘殺は、平年と比べ少なかった（第1表）。

第1表 モモハモグリガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	6月					
	1	2	3	4	5	6
平年	37.3	48.6	18.6	15.5	9.2	14.8
前年	3	5	2	2	1	5
本年	1	5	0	1	0	3

平年は2015年から2024年までの平均値

⑤ハダニ類

巡回調査では、被害葉はみられなかった。

⑥アブラムシ類

巡回調査では、東信地域2ほ場、北信地域2ほ場で新梢への寄生が認められた。寄生ほ場の平均新梢寄生率は東信18.5%、南信3.3%と東信地域で高かった。

⑦カメムシ類

巡回調査では、被害果はみられなかった。

6 **ぶどう**

(1) 病害虫の発生状況

①うどんこ病

巡回調査では、果房への発病はみられなかった。

②べと病

巡回調査では、新梢および果房への発病はみられなかった。

③灰色かび病

巡回調査では、花穂への発病はみられなかった。

④黒とう病

巡回調査では、新梢葉および花（果）房への発病はみられなかった。ただ北信1ほ場で調査対象外の品種に果房への発病がみられた。

⑤チャノキイロアザミウマ

巡回調査では、被害葉はみられなかった。

⑥クビアカスカシバ

小布施町（病害虫防除部）のフェロモントラップでは、誘殺頭数は第2半旬以降、平年と比べ多かった（第1表）。

第1表 クビアカスカシバのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
小布施町

区分	6月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平年	3.6	14.0	17.1	11.5	13.7	13.7
前年	6	30	15	4	21	7
本年	0	20	42	49	47	47

平年は2015年から2024年までの平均値

7 **かき**

(1) 病害虫の発生状況

①うどんこ病

巡回調査では、発生がみられなかった。

②円星落葉病

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）での孢子飛散状況は、平年と比べ少なかった（第1表）。

第1表 カキ円星落葉病の子のう胞子の捕捉数 高森町（南信農業試験場）

区分	6月						7月		
	1	2	3	4	5	6	1	2	3
半旬									
平年	7.5	12.0	22.4	24.0	37.1	51.8	57.9	57.2	70.2
前年	1.3	0.3	0.5	—*	1.6	0.2	19.2	1.0	40.7
本年	1.0	0.4	4.4	3.3	22.1	25.2	61.0	23.0	40.7

表中の数字は18mm×18mm当たりの孢子数（×1000個）

平年は2015年から2024年までの平均値

*は機器不具合による欠測値

④カキクダアザミウマ

巡回調査では、発生はみられなかった。

⑤ハマキムシ類

巡回調査では、発生はみられなかった。

⑥フジコナカイガラムシ

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺は、第3半旬以降なかった（第2表）。

第2表 フジコナカイガラムシのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	6月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平年	13.8	2.5	0.2	0.7	1.2	0.9
前年	0	0	0	0	0	0
本年	2	3	0	1	0	0

平年は2015年から2024年までの平均値

8 **うめ**

(1) 病害虫の発生状況

①かいよう病

巡回調査では、南信の1ほ場で発生が見られた。

②黒星病

巡回調査では、発生はみられなかった。

9 野菜・花き

(1) 病害虫の発生状況

① トマトの病害虫

巡回調査における病害については、東信地域の露地栽培でウイルス性病害（CMV）、中信地域の施設（半促成）栽培で灰色かび病の発生がみられた。

虫害は、東信地域の露地栽培でアザミウマ類、アブラムシ類、中信地域の施設（半促成）栽培でアザミウマ類、露地栽培でアブラムシ類、北信地域の施設（半促成）栽培でオンシツコナジラミの寄生がみられた。

② きゅうりの病害虫

巡回調査における病害については、中信地域の施設（半促成）栽培でうどんこ病の発生がみられた。

虫害は、全調査ほ場でアザミウマ類の寄生がみられた。また、北信地域の露地栽培でオンシツコナジラミの寄生がみられた。

③ すいかの病害虫

巡回調査では、中信地域でアブラムシ類の寄生がみられた。

④ いちごの病害虫

巡回調査では、東信地域でアザミウマ類、アブラムシ類の寄生がみられた。病害の発生はみられなかった。

⑤ キャベツの病害虫

巡回調査における病害については、東信地域の一部のほ場で株腐病、べと病の発生がみられた。

虫害は、東信地域で、コナガ、ウワバ類の寄生、チョウ目害虫による被害がみられ、南信地域でウワバ類の寄生、チョウ目害虫による被害、北信地域でコナガ、ウワバ類の寄生、チョウ目害虫による被害がみられた。

⑥ ブロッコリーの病害虫

巡回調査における病害については、東信地域の一部のほ場で黒腐病、べと病の発生がみられた。

虫害は、東信地域でチョウ目害虫による被害、一部のほ場でコナガの寄生、南信地域でウワバ類の寄生、チョウ目害虫による被害がみられた。

⑦ はくさいの病害虫

巡回調査における病害については、中信地域の一部のほ場で軟腐病、べと病の発生がみられた。

虫害は、東信地域の一部のほ場でチョウ目害虫による被害がみられた。

⑧ レタスの病害虫

巡回調査における病害については、東信地域ですそ枯病、一部のほ場で菌核病、斑点細菌病の発生がみられた。

害虫の発生は、みられなかった。

⑨ セルリーの病害虫

巡回調査では、病害虫の発生はみられなかった。

⑩ アスパラガスの病害虫

巡回調査における病害については、南信地域の雨除け栽培、北信地域の露地栽培で茎枯病の発生がみられた。

虫害は、全調査ほ場で、アザミウマ類の寄生がみられた。また、北信地域の露地栽培で、ジュウシホシクビナガハムシの寄生がみられた。

⑪ たまねぎの病害虫

巡回調査における病害については、中信地域で、黒斑病、べと病の発生がみられた。

虫害は、中信地域でアザミウマ類、ネギハモグリバエ、北信地域でアザミウマ類の寄生がみられた。

⑫ ねぎの病害虫

巡回調査における病害については、南信地域で黒斑病、さび病の発生がみられた。

虫害は、南信地域でアザミウマ類、ネギハモグリバエ、ネギコガ、中信地域でアザミウマ類、アブラムシ類の寄生がみられた。

⑬ コナガ（アブラナ科野菜）

フェロモントラップによる調査での誘殺頭数は、塩尻市では平年と比べかなり少なかった。

小諸市では、変動が激しかったものの、6月の総誘殺頭数は平年並であった。上田市、長野市では、ほぼ平年並の誘殺頭数であった。

原村、朝日村では、中下旬の誘殺頭数は平年と比べ多かった（第1表）。

第1表 コナガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	6月					
			半旬	1	2	3	4	5
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	13.8	13.1	11.3	10.0	16.4	12.2
		本年	1	0	1	2	0	1
小諸市山浦 (野菜花き試験場 佐久支場)	レタス	平年	17.9	21.5	27.5	31.2	34.9	31.0
		本年	21	10	38	46	34	18
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	0.7	1.1	1.8	2.7	1.8	5.5
		本年	0	3	1	1	2	2
原村判の木 (防除適期決定ほ)	フロコラー	平年	27.6	26.4	23.6	27.5	35.6	42.7
		本年	11	35	22	74	63	118
朝日村古見 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	25.6	30.6	18.1	17.3	14.1	12.4
		本年	36	34	30	45	35	28
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	32.5	32.2	23.7	27.4	21.9	28.3
		本年	27	18	24	24	15	11

平年は2015年から2024年までの平均値

朝日村は2019年から2024年までの平均値

⑭オオタバコガ

フェロモントラップによる調査での誘殺頭数は、塩尻市では第2、第3半旬は平年と比べ多かったが、第4～第6半旬は平年並であった。

小諸市では、第1半旬は平年と比べ多かったが第2半旬以降は平年並であった。

須坂市では、平年と比べやや多かった（第2表）。

第2表 オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	6月					
			半旬	1	2	3	4	5
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	5.6	5.6	3.9	3.0	2.2	2.8
		本年	6	15	16	2	3	4
小諸市山浦 (野菜花き試験場 佐久支場)	レタス	平年	6.7	8.2	7.5	7.3	4.0	8.1
		本年	24	11	5	5	8	5
須坂市小河原 (農業試験場)	さつまい も・水稲	平年	1.8	1.6	1.3	0.8	0.4	0.4
		本年	4	1	1	4	2	1

平年は2015年から2024年までの平均値

⑮ヨトウガ類

フェロモントラップによる調査では、ヨトウガの誘殺頭数は、全般にほぼ平年並であった（第3表）。

ハスモンヨトウの誘殺頭数は、塩尻市では平年と比べ多かった。

須坂市では、ほぼ平年並の誘殺頭数であった。

上田市では、平年と比べやや遅い第4半旬に初誘殺され、誘殺頭数はほぼ平年並であった（第4表）。

シロイチモジヨトウの誘殺頭数は、塩尻市では平年と比べ多かった。

長野市では、ほぼ平年並であった（第5表）。

第3表 ヨトウガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	6月					
			半旬	1	2	3	4	5
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	7.5	7.5	7.4	7.3	3.9	4.3
		本年	10	11	4	3	3	3
須坂市小河原 (農業試験場)	さつまい も・水稲	平年	2.7	1.1	1.0	0.2	0.0	0.0
		本年	1	0	0	0	0	0

平年は2015年から2024年までの平均値

第4表 ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	6月					
			半旬	1	2	3	4	5
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	2.4	3.6	4.1	5.6	5.9	6.7
		本年	4	10	15	28	17	23
須坂市小河原 (農業試験場)	さつまい も・水稻	平年	1.2	2.4	3.8	4.9	10.4	6.2
		本年	0	3	3	9	8	7
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	0.0	0.4	0.9	2.1	3.9	5.3
		本年	0	0	0	3	5	1

平年は2015年から2024年までの平均値

第5表 シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	6月					
			半旬	1	2	3	4	5
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	1.0	0.6	1.0	0.7	0.8	1.8
		本年	2	2	5	16	8	3
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	0.0	1.9	1.6	0.9	1.3	0.1
		本年	0	0	1	0	1	0

平年は2015年から2024年までの平均値

長野市は2018年から2024年までの平均値

⑩アブラムシ類（野菜・花き全般）

黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の誘殺頭数は、全般に平年と比べ多かった。

塩尻市宗賀では、平年に比べ多く、6月の総誘殺頭数は、平年の約2倍であった。

小諸市では、平年と比べかなり多く、特に第4半旬は平年の10倍の誘殺頭数であったが、第5、第6半旬は平年並であった。

上田市では、第4半旬まで平年と比べ多かったが、第5、第6半旬は平年並であった。

塩尻市洗馬では、平年と比べやや多い誘殺頭数で推移したが、第6半旬に急増し、平年の約7倍の誘殺頭数であった。

長野市では、6月の総誘殺頭数は平年の2.7倍であった（第6表）。

第6表 アブラムシ類有翅虫の黄色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	6月					
			半旬	1	2	3	4	5
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	15.0	11.9	17.4	19.4	22.9	16.7
		本年	22	59	45	32	28	43
小諸市山浦 (野菜花き試験場 佐久支場)	レタス	平年	27.6	21.8	38.8	28.8	22.9	36.9
		本年	140	135	142	285	25	46
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	21.3	9.8	7.6	6.0	6.8	4.1
		本年	24	20	20	16	8	6
富士見町立沢 (地区発生予察ほ)	きく	平年	-	-	-	-	-	-
		本年	36	45	36	22	18	17
塩尻市洗馬 (地区発生予察ほ)	レタス	平年	47.1	49.8	47.8	44.3	60.1	46.0
		本年	31	73	64	74	83	348
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	12.0	10.5	13.8	15.0	21.0	14.6
		本年	38	37	26	84	30	21

平年は塩尻市・小諸市・富士見町では2017年から2024年までの平均値

上田市・長野市では2018年から2024年までの平均値

富士見町は調査地点変更により平年値無し

⑪アザミウマ類（ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマなど）

青色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺頭数は、上田市では第3半旬までは平年と比べやや少なかったが、第4半旬、第6半旬は平年と比べやや多かった。

塩尻市では、上旬はほぼ平年並の誘殺頭数であったが、第3半旬以降は平年と比べ多かった。

長野市では、全般に平年と比べ少なかった（第7表）。

第7表 アザミウマ類の青色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	6月					
			半旬	1	2	3	4	5
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	4.0	13.0	11.6	10.0	10.6	9.7
		本年	0	2	3	18	5	16
富士見町立沢 (防除適期決定ほ)	きく	平年	-	-	-	-	-	-
		本年	22	13	77	70	27	91
塩尻市洗馬 (地区発生予察ほ)	レタス	平年	5.5	9.3	6.3	7.3	14.1	22.6
		本年	6	13	19	47	24	44
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	4.0	7.9	9.4	14.9	22.4	33.9
		本年	0	1	5	4	9	6

平年は塩尻市では2017年から2024年までの平均値
 上田市・長野市では2018年から2024年までの平均値
 富士見町は調査地点変更により平年値無し